

お客様各位

株式会社 山喜農園  
新潟県魚沼市原1280-1  
TEL. 025-794-2455  
FAX. 794-4168

E-mail: info@yamaki-noen.co.jp

HP Address: http://www.yamaki-noen.co.jp

## 球根情勢報告

### 2015年産オランダ産百合球根新品種導入依頼について

平素よりお引き立ていただき、誠にありがとうございます。  
今回特別なご報告とご案内（依頼）をお送りいたします。  
ご検討いただきます様、よろしくお願い致します。

#### オランダ対策を始めます。（今まで以上に一步踏み込んで！）

既に一部のお客様へはご案内させていただいている通り、『今後のオランダN.L産養成球/N.L産・F.R産・N.Z産開花球生産確保対策』を始めなければなりません。

※7月22日付当社HPに、『オランダ産百合球根栽培面積表速報版』を載せてあります。  
各々の品目の面積推移、分析はまだ出来ておりません。  
後日、詳細報告を改めてご案内させていただきます。

オランダにつきまして、

14年産/15年産を比較して				14年産	15年産	増減	
1)	リンペン養成1年栽培			1.48 ha	2.11 ha	0.63 ha	
2)	リンペン養成2年栽培+開花球2年栽培		(一部リンペン繁殖用切花生産含む)	6.29 ha	5.65 ha	-0.64 ha	
3)	開花球1年栽培		(一部リンペン繁殖用切花生産含む)	13.34 ha	14.33 ha	0.99 ha	
4)	温室又は網室内原母球栽培	※※		0.00 ha	0.00 ha	0.00 ha	

※この他にF.R産/N.Z産開花球1年栽培2年栽培がございます。（増減の確認はとれていません。）

オランダ産栽培面積の推移につきましては、13年産/14年産の準備状況から判断すれば、15年産の面積は妥当な動きとなっている様に見えます。（商業取引上の意味ではなく、単純に母球数・養成球数・開花球の球数（推定）の推移と言う意味で）

世界市場（主に日本市場）における、オランダ球根の消費量は減少傾向を示しています。特に、13/14/15年産開花球消費はかなりの減少が見込まれています。（実は養成球消費量も減少傾向）

一見栽培面積は維持されている様に見えますが、既に数件しか球根生産会社が残っていない、オランダ・フランス・ニュージーランドの現状を考えれば、いつ一人止め、二人止め…という状態が起きてもおかしくありません。  
絶滅危惧種と言えはくなんでも言い過ぎですが、世界の百合球根産業が直面している品質維持問題（Plamvに代表されるウイルス問題・農薬使用規制から発生するであろうネーダ問題 etc.）等考えれば、様々な策を踏み込んで講じておかなければいけないと考えております。

V.Z社（VOF/TYS）ホップマン社（TYS）が既に実施している対策として、代表的な方法は、

- 1) 原母球系統を2ないし3系統確保する。それらを各々分離して栽培する。1カ所に生産を集中させない。
- 2) 1～3年の増殖肥培期間中は、履歴をすべて別管理し、10数系統に分離して、仮に病気の侵入等があってもすぐさま別管理ロットでバックアップできるようにしておく。

3) その他、品質を維持する為に講じなければならない策は、徹底して実行する etc.

※両社ともに5~10年以上新規のメロン増殖は行っていません。(という事は…F.R産も…N.Z産も…)  
(両社ともに原則メロンは入っていないという認識…。年間2~3回、様々な生育ステージの球根・リンポン・下根・葉 etc. をチェックしている。)

※更なるバックアップ体制をとる為、両社に対し20,000~40,000球のメロン・ティッシュカチャーをかけることを依頼しました。**購入側が経費を負担する事で交渉中です。(何年間かに分けて球根代に加算するという方式で。)**

2015/2016年にメロン・ティッシュカチャーをかけても、それらの原母球が実際養成球として供給されてくるのは、2020年以降となります。

従って、15年産から19年産までの間は、現在使用している母球から増殖される球根のみ流通するという事をご承知ください。

最近では、球根生産の仕組みについていまひとつ理解が進んでいない一部業界人から、「山喜さん、いつまでメロンカの話をしているの？」すっかり爺さん扱いです。

**メロン産+フランス産開花球：メロン産養成球(イール国産球)：N.Z産球根は三位一体なのです。一つおかしくなれば全部崩れる！**

**事が起きる3~5年前から準備を始めないと間に合わないのだという事。**

**そしてこの問題は新旧問わずどの品種にも起こりうる話なのです。(例えばメロン・メロン・メロンですら…。)**

メロンカから若干話が反れますが…

メロンの替わりの品種としては(あくまでも初夏晩秋期作型について)、

既にアステリアン・ロビンソン・アイスランド etc. 更には、エバース・サンバジ等切花栽培されていますが、これらの品種は、整備をしなければならない栽培環境の範囲が狭すぎると感じています。(例えば露地栽培のみとか…。)

今、『酷暑期物流耐性』という点で可能性を感じているのは、パンフィクォーションとトゥレカです。(まだ絶対とは言えませんが…)パンフィクォーションは、数年来試験栽培をくり返していますが、トゥレカは試験を始めたばかり…V.Z社曰く…本当はまだ分からない…。

だから試験するんですけどね！(個人的には、それでもメロンカ・メロンカを超える酷暑期物流耐性能力を持っている品種は…難しいと考えています。)

メロンカ・メロンカ・メロンカ夏秋期代替種については、まだ品種名を明かしたくありません。(自信が無から…。)

いずれにしても夏秋作型用品種の選択条件は…(本当は冬場用だって…)、

1) 過去に物流事故を起こしている品種を交配親の系統に持つ品種は可能な限り外します。

2) 親の系統…例えばアルト・サンダー・アルマータ・ラガナ・ヒルバティア(2004年までに育成された品種はほとんどこれら品種の血統。これらの血統に問題が確認されていた。)

3) **今現在流通しているどの品種が、夏秋期において物流耐性が無いのか、又は弱いのかの説明は致しません。(物議を醸すから…。)**

**大変長い前置きとなりましたが、これ以降より今回お伝えしたい内容となります。**

メロンカを守る！

夏場の品種を作る！

酷暑期耐性品種の模索！

物流耐性！(4日目販売に耐えうる…)

7月18日当社情勢報告において、試験栽培の説明をさせていただいておりますが、白系の中には、酷暑期対策についてまだ研究の余地が残されておりますが、物流耐性の点においては可能性を感じさせる品種が出てきています。

カブラカの替わりのイメージ 4品種（上向き大輪系初夏晩秋期作型用とも言う）  
シベリアの替わりのイメージ 2品種  
クリスタルブラカの替わりのイメージ 1品種

コンスタの替わりのイメージ 2品種（初夏用、初冬から冬場用。花保ちが尋常でなく良い。早生種。）  
ほどです。

**たった9品種しか…。逆に9品種も…とも言えませんか？**

**日本市場は、9品種もの新品種の球根生産を日本市場の為に実行してもらおう努力をしていますか？出来ませんか？（業界が共通見解に建てますか？1軒の輸入会社の独占は無理…。何軒かの会社で、産地で、チームを組んで、これって新しい動きになる様な気がしませんか？既にガンダ球根生産会社は始めていますよ！）**

**例：L.Aグループ『ブルムズ』『ガジグループ』、O.Hその他生産グループ『フォルダフィデス』『オリジナルグループ』etc.  
そして日本では『JFTD』が…。**

「カブラカを守る」と言っておきながら、別の品種の説明を紹介するのも変な話に聞こえるかもしれませんが、

『守ると言っても全部を守り切れる訳ではありません。』

『守れる量と守り方も様々な方法があると思っています。』

『オプションは多く用意しておいたほうが良いと考えられます。』

**夏秋期用の品種でまだまだ使用用途が制限されると考えられますが、新品種としては『まとまった量を確保できる品種』、『物流耐性という点で可能性を感じている品種』がございます。**

## 品種名 『コトパクシー』

- 1) 露地栽培・雨除け栽培・無加温開放型温室向けの品種です。露地作で90cmはとれるはず。
- 2) 茎はそれなりに硬いです。少なくともシベリアより、カブラカより硬い。
- 3) 大球で葉焼けが出にくい。
- 4) 奇形花もさほど苦にならない。（世代が若いうちは多少…。酷暑期のおしべ花弁化については未調査。）
- 5) 到花日数はシベリア・カブラカ並みに長い。←夏作では良い事！
- 6) ガンダ産2N球がある。フランス産1N球がある。
- 7) 養成球が確保できます。（これを最も薦めます。）
- 8) ガンダ産球根生産会社は、1軒のみ Bortha 社のみです。（良い農家です。）
- 9) 取扱輸出業社は、Vdb 社のみです。（15年までは…その後は不明です。）
- 10) 純白の蕾だが、咲くと花色はややクリーム色です。（切前硬くとも、十分すぎる程大輪です。）
- 11) 名古屋花き金子常務が絶賛しています。
- 12) 大田花き？？氏からは、葉が折れやすいのでは？葉が大き過ぎるのでは？とのコメントがありました。（夏場に作ってみましょう！）
- 13) 花じみは、今のところ確認されていません。←これが最も重要ですね！
- 14) 4日目販売に挑戦できる可能性あり…？？
- 15) 輪付きが極めて悪い…30年前のカブラカくらい…。
- 16) ガンダ産2N球でも20/UP～…フランス産抑制作型用球根も20/UPを中心に…。
- 17) 養成球は、12/14：14/16 35：65 位の割合の導入をお勧めします。

繰り返しますが、球根が大きくても葉焼けは出にくい。

これってカブラカ国産球使用対初夏晩秋作型の切花農家の方々は、取り組みやすいのでは？

切下球根切花栽培にも最適と考えられます。

**この他に紹介したい3品種は、まだ十分な球数が確保できません。時間がかかります。（ガンダ-ラの開花球**

のみお薦め。あくまでも夏秋期用。) この品種も可能性を感じている3品種の内の一つです。

ぜひ導入検討していただけないでしょうか？

よろしく願い致します。

**特に、新潟県内国産ガブラカ（輸入球ガブラカも…）を用いて百合切花を生産されている切花農家の方々に導入検討願います。**

PS:

1) 『新潟レクシオンリープロジェクト』⇔『魚沼隔離』は、始まったと思ったら、一気に終盤戦。

21日22日の高温及び熱風の為、立毛の状態が蕾が焦げまくっています。

この状態を見た事ある人いますか？（営利栽培農家は、きちんと対策を立てているので、この問題はありません。念の為。）

丁度当社試験栽培（箱植え栽培）において7月5～10日頃「梅雨の中休み」の高温で花が丸焦げになるのと同じ状態か、それ以上にひどいです。

「初期低温」「後期高温」のこの試験栽培地環境は、最もわかりやすく、「水上げ確認」・「花じみ感受性確認」が出来ます。

2) MAK社の白系OTは、ズバ抜けて暑さに強い事が分かりました。他社とはレベルが違います。将来期待したいです。（そもそも、OT系は冬場用、赤道直下標高の高い切花生産地、オランダの夏場以外の作型で成功しているんですね！この事は、球根を売っている輸出業社も指摘されるまでほとんど気が付いていませんでした。ただ売っているだけだからそうなる！ちょっと怒っています。）

詳細は、お問い合わせください。

以上 森山 隆